

① 清田開基百年碑



所在地 平岡2条1丁目
 建立 昭和50年9月

厚別神社の境内に、静かに立つ清田開基百年碑。昭和五十年、先人への感謝と今後の繁栄を祈念して建立されました。

集団入植に恵まれなかった清田では、先に入植した人たちを頼りに、少しずつ入植者が増える状態でした。このような状況で大森林を切り開く苦労は、想像を絶するものがあつたことでしょう。まさに血と汗のにじむ努力だったと碑は語っています。

現在の清田の繁栄は、未開の地に敢然と立ち向かった先人たちの、執念と苦労があつたことを忘れることはできません。



清田開拓の歴史を伝える**碑**を訪ねる。

② 吉田用水記念碑



所在地 清田1条1丁目※
 建立 大正8年10月

※ことし7月、厚別川左岸通の河川側から、歩道側に移設されました。

明治10年、清田地区で最初の米作りが始まり、明治20年代には本格的な水田作りの気運が盛り上がります。

明治24年、広大な農場の主、吉田善太郎は、諸橋亀吉らと協力して、現在の厚別橋下流約300メートル地点から、大谷地小学校の東側を經由し月寒川に達する延長約5キロメートルの用水堀（吉田用水）を開削しました。

この吉田用水が地域の発展に果たした役割は大きく、地区一帯は広々とした美田に生まれ変わり、水田農家が100戸を超えたこともあったと伝えられています。

③ 開拓功勞碑

清田開拓の祖、長岡重治は、明治4年、月寒開拓団の一員として来道し、同6年、アシリベツ（現清田地区）の初期の入植者として同地に移住しました。

重治は厚別川のほとりに水田を開き、寒冷地における稲作技術の改良に苦労を重ねるとともに、神社や橋、学校、用水路などの設置や建設に尽力し、地域の振興に貢献しました。

碑は、重治が開いた寺子屋が前身の清田小学校の校庭に、その威容を誇っています。



所在地 清田1条4丁目
 建立 昭和22年11月

④ 有明開拓記念碑

現在の有明は、もともと篠路屯田の公有地だったため、昭和19年までは「公有地」という呼称が一般的でした。

この地は、明治30年ころから開拓が始まりましたが、集団入植ではなかったため、開拓は困難を極めました。そんな悪条件の中、入植者たちは団結して明治33年に公有地神社（現有明神社）を建立。苦闘につぐ苦闘の末に、稲作が成功したのは、明治42年ごろと伝えられています。明治41年に建立されたこの碑は、有明神社の境内に長い歴史を刻みながら鎮座しています。



所在地 有明106
 建立 明治41年9月



「清田の歴史」のことならココ！
 見て、触れて、体験して、自ら調べる
あしりべつ郷土館

開拓当時の家屋を再現したコーナーや、昔の生活道具や農機具などが展示されています。

開館日：火～日曜日
 休館日：月曜日、年末年始、区民センター閉館日
 開館時間：午前10時～午後4時
 入館料：無料
 所在地：清田1条2丁目
 清田区民センター2階
 電話：885-0869